

昭和東南海地震とは



昭和東南海地震により、崩壊した軍需工場
(旧日清紡績道徳工場 名古屋市南区)

● 概要

昭和 19 年 (1944 年) 12 月 7 日
午後 1 時 36 分頃 震央：東海道沖
マグニチュード 7.9
最大震度 6 (震度 7 相当※)

※1923～1949 年は、震度 6 が最大震度であったため、現在の震度階級に相当する震度として記載



震源域…紀伊半島東部の沖 (熊野灘) から遠州灘にかけての領域
(出典) 地震調査推進本部「日本の地震活動」、気象庁 (1968) による

全国の被害

死者	1,223 名
負傷者	2,864 名
住家全壊	17,611 件
半壊	36,565 件
非住家全壊	17,347 件
半壊	24,473

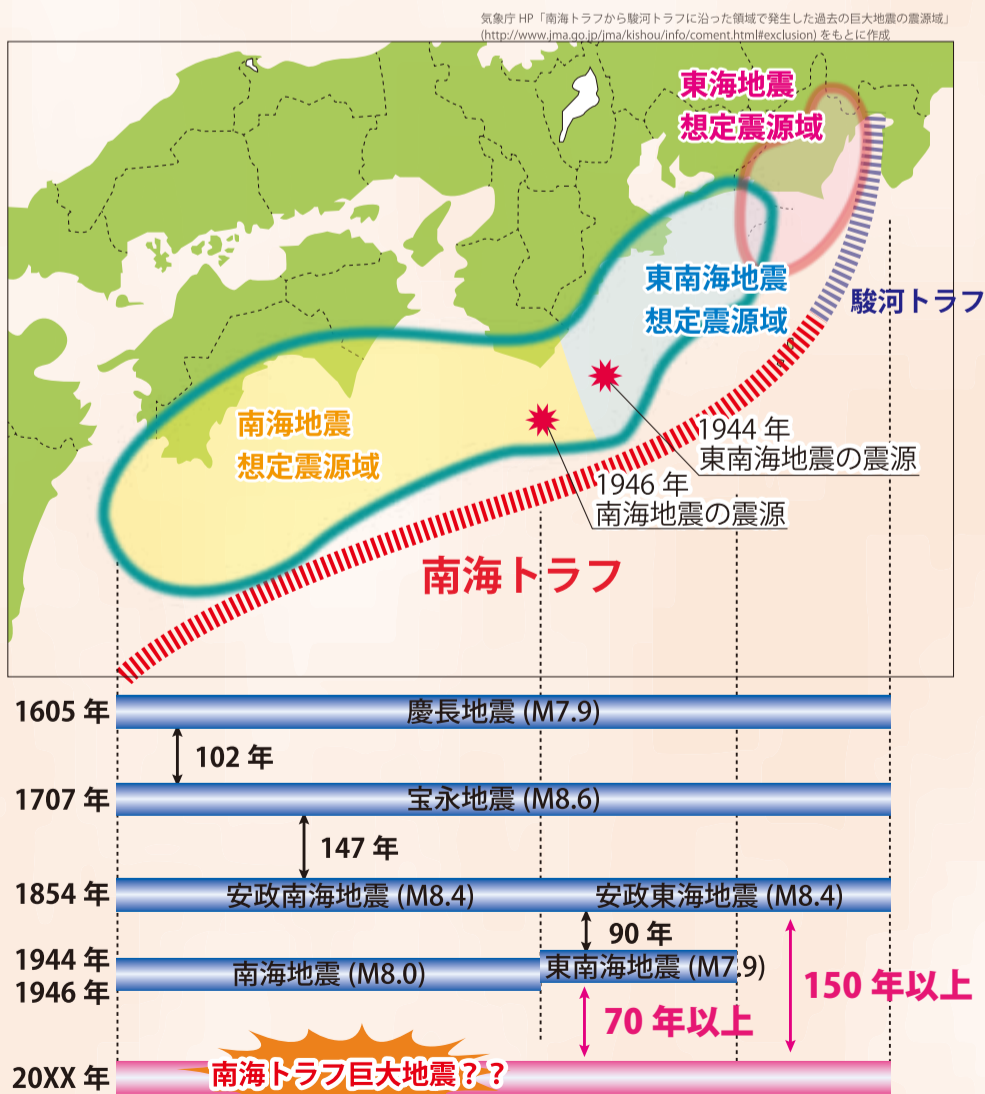
名古屋市の被害

死者	121 名
負傷者	485 名
住家全壊	1,221 件
半壊	6,339 件
非住家全壊	248 件
半壊	902 件

当時の発表によると名古屋は震度 5 の強震でした。震害をもとに震度の定義に従って震度分布を求めると、名古屋市南部の十数か所で震度 7 であったと推測できます。全国の被害の中心は、愛知県、静岡県、三重県でした。

参考：飯田淑事『昭和19年12月7日東南海地震の震害と震度分布』愛知県防災会議、1977

1944年 (昭和19年) の昭和東南海地震から 70 年以上が経過



現在、昭和東南海地震からは 70 年以上が経過しています。南海トラフの巨大地震の発生間隔がおおむね 100～150 年であることから、名古屋を含む該当の地域では巨大地震の発生が懸念されています。

なお、地震調査研究推進本部地震調査委員会の評価では、南海トラフでマグニチュード 8 から 9 クラスの地震が 30 年以内に 70% から 80% の確率で発生するとされています。



東南海地震の碑
所在地：南区豊田名南ふれあい病院